

# 会報 陽だまり

第19・20号  
合併  
平成27年12月



きららクラブ山形  
一般社団法人  
山形県老人クラブ連合会

〒990-0021 山形市小白川町2-3-31 県総合社会福祉センター2階  
tel (023)622-5601 fax (023)622-5606  
ホームページ <http://www.kirara-yamagata.or.jp>  
E-mail [yrouren@poplar.ocn.ne.jp](mailto:yrouren@poplar.ocn.ne.jp)

## 「きららクラブ山形」 の愛称に決まりました!!



「きららクラブ山形」のマスコットキャラクター「きららちゃん」として、継承し使用されます。

時代のニーズにマッチした健康長寿の組織である老人クラブが生まれ変わるべく、山形県らしさ、健康で明るく元気な高齢者を連想させる「愛称」を募集しました。

その結果、10歳代から90歳まで幅広い県民の皆さんより715点の応募をいただき、選考の結果「きららクラブ山形」に決定しました。

同一愛称（表記）で4名の応募があり、抽選の結果山形市在住の設楽栄子さん（73歳）が最優秀賞に決まりました。

愛称は、「いつまでも若々しくきらきらと輝いて仲間づくりに参加できるように」との願いが込められており、その思いを大切にしながら、今回の愛称募集を契機に会員一同元気で明るく、楽しいクラブ活動をめざしていきます。

また、次点となった方は以下の3名です。

川西町在住の佐藤みよさん（78歳）

最上町在住の野口信也さん（77歳）

舟形町在住の桜井光代さん（84歳）

決定した愛称は、6月16日の第9回理事会を経て同26日の通常総会において報告と併せて、最優秀賞の伝達を行い7月1日より使用しています。



### 選定委員会委員

◎選定委員長

所属役職	氏名
山形県健康福祉部健康長寿推進課長	沼 沢 弘 幸
山形県社会福祉協議会常務理事	永 澤 孝
山形市社会福祉協議会常務理事 山形市老人クラブ連合会常務理事	栗 原 浩 一
西川町社会福祉協議会事務局長 西川町老人クラブ連合会事務局長	菅 野 邦比克
山形県民生委員児童委員協議会会長	佐 藤 宏
山形県男女共同参画センター館長	◎高 木 直
東北芸術工科大学映像学科教授	加 藤 到
特定非営利活動法人 yamagata 1 事務局長	海 谷 美 樹
山形新聞社取締役編集局長	深 山 洋
山形放送株式会社取締役制作局長	板 垣 正 義
山形県老人クラブ連合会会長	柿 崎 繁 雄
山形県老人クラブ連合会副会長	亀 谷 千代子
山形県老人クラブ連合会副会長	吉 泉 吉四良
山形県老人クラブ連合会副会長	小 川 正
山形県老人クラブ連合会副会長	小 林 達 夫
山形県老人クラブ連合会常務理事	高 橋 潔

### 【応募状況】

応募者数	506人
応募点数	715点

応募点数の内訳	応募数	割合
地域別		
村山地区	347点	48.5%
最上地区	56点	7.8%
置賜地区	144点	20.1%
庄内地区	161点	22.5%
その他	7点	1.1%
性別		
男	412点	57.6%
女	298点	41.7%
不明	5点	0.7%
年齢別		
20歳未満	1点	0.1%
21～39歳	11点	1.5%
40～59歳	41点	5.7%
60～74歳	205点	28.7%
75歳以上	248点	34.8%
不明	209点	29.2%

# 第50回山形県老人福祉大会

健康寿命の延伸と温かな地域づくりを誓う



式辞：県老連柿崎会長

## 大会宣言(案)

わが国は高齢者が増え続けるなか、要介護者の増加、高齢者の孤立、消費者被害の拡大などさまざまな課題が表面化しています。

老人クラブは、仲間づくりを基本に、生きがいつくり、健康づくり、地域づくりを目指す、幅広い活動を実践してきました。

私たちはこれまでの経験をいかして、住み慣れた地域で長く生活を続けるために、自らの健康寿命をのぼし、同世代同士の見守りや生活支援による支え合いを通じ、高齢者の直面する課題に対応した活動に取り組んでいきます。

また、行政や自治会、社会福祉協議会などの関係団体と連携して、共にあたたかな地域づくりを担っていくことを目指します。

年を重ねても社会に貢献する意欲と姿勢を失わない生き方が求められ、同時に住み慣れた地域で安心して生活できる社会を実現するためにも、多くの高齢者がクラブに集い、すべての地域にクラブの輪を広げる会員増強運動を、昨年度から5カ年計画で展開しています。

古来城下町、宿場町、舟運の要として栄え、神室連峰の美しい山塊の麓にある最上地方の中心都市「自然と共生 心豊かに笑顔輝くまち新庄」に集う老人福祉関係者は、「のぼそう！健康寿命、担おう！地域づくりを」のメインテーマのもと、次の事項の実践を誓い、ここに宣言します。

- 一、老人クラブ「2万人会員増強運動」の展開
- 一、健康寿命をのぼす「健康づくり・介護予防活動」の充実
- 一、生活を支援する「地域支え合い(友愛)活動」の推進
- 一、消費者被害防止に向けた活動の実践
- 一、高齢者の尊厳が守られる社会保障制度の確立

平成27年8月28日

第50回山形県老人福祉大会

8月29日、新庄市・市民文化会館において、県内市町村老人クラブの役員、老人福祉関係者等1,000名余が参加し、第50回山形県老人福祉大会が開催されました。

今年は、戦後70年にあたることから、前半を「戦争体験世代が語り、若者たちが受け継ぐ平和な社会」をテーマに企画しました。内容については3ページで紹介いたします。

式典では、柿崎繁雄県老連会長が「健康寿命をのぼし、住み慣れた地域で暮らせる社会の構築が求められており、そのためには会員一人ひとりが自己実現できるよう今後も仲間づくりをすすめ多彩な楽しい活動に取り組もう」と式辞を述べ、山尾順紀新庄市長の歓迎の言葉に続き、ご臨席の来賓を代表して県知事代理最上総合支庁阿部清支庁長をはじめ、伊藤重成県議会副議長、清水清秋新庄市議会議長よりご祝辞を賜りました。

また、引き続き老人クラブの育成指導に貢献し、社会福祉活動が顕著な方々に対して県知事感謝状と県老連会長表彰並びに感謝状が伝達され、あわせて老人クラブ会員加入促進キャンペーン運動達成と全老連活動賞受賞の紹介も合わせて行われました。

そして、受賞者を代表して真室川町の高橋美津雄さんが「受賞を心の励みとし、地域の絆を強める活動を続けていきたい」とあいさつされました。

大会宣言では、吉泉吉四良県老連副会長が、宣言案を朗読し提案を行い、満場の大きな拍手をもって採択されました。

### I 県知事感謝状

- ① 老人クラブの指導育成に特に貢献のあった者・・・35名
- ② 社会福祉(地域)活動が特に顕著な老人クラブ・・・4団体
- ③ 老人福祉施設等の介護職員として15年以上業務に精励し、他の範と認められる者・・・25名

### II 県老連会長表彰

- ① 老人クラブ育成指導功労・・・84名
- ② 優良老人クラブ・・・15団体

### III 県老連会長感謝状

- ① 事業協賛協力団体・・・2団体



受賞代表あいさつ

# 「戦争体験世代が語り、若者たちが受け継ぐ平和な社会」

今年、終戦から70年を迎えました。

戦争体験者の高齢化が進み、当時を語れる方も年々少なくなってきました。

しかし、あの時日本人が経験した戦争の実態は、年月の経過と共に風化させてしまふにはあまりにも重く、その記憶を後世に伝えていくことが今を生きる私たちに託された役割ともいえます。

県老人クラブ連合会では、平成17年に戦後60年記念事業として語り継ぐ戦時体験の募集を行い「戦より平和は良けれ～戦争を知らないあなたに」を出版し、あれから10年の月日が流れ、この本を通して多くの方と出会い反響も大きいものがありました。

昨年10月、この本が縁でつながり東北芸術工科大学映像学科1年生が取り組む授業の中で「戦争体験をビデオ取材する」課題が出され、本会ホームページを通じインタビュー取材協力者の紹介依頼を受け、若い世代に戦争体験を語り継ぎ風化させないためにも貴重な機会として、執筆者の中から14名の方を紹介し、「活字」から「映像」に形を変えて、平和への祈りのメッセージは着実に若い世代にも受け継がれていること実感できる思いでした。

これら経緯を、第50回県老人福祉大会において特別企画「戦争体験世代が語り、若者たちが受け継ぐ平和な社会」をテーマに、第1部では戦後60年からの10年を振り返りスライドにまとめました。

第2部ではこの本が縁でつながった東北芸術工科大学映像学科学生の菅原史哉さん、浅尾萌子さん、佐藤安稀さん3名から「戦争体験をビデオ取材する」という演習でのインタビューをとおして感じたことを発表いただき、第3部では3名が編集制作した映像を披露していただきました。

それら作品を含め映像学科で学ぶ61名全員で制作した「子どものころ戦争があった～大学生が聴く戦争体験～」のタイトルで山形国際ドキュメンタリー映画祭において上映されることも報告紹介しました。

また、山形市内にある八文字屋本店の郷土出版コーナーにも取り上げていただき、戦後が恒久的に続く平和な社会であることを願い、戦争を体験された一人ひとりの記憶を、次の世代に対して語り伝え、それを若者たちが継承していかなければならないと思います。



佐藤 安稀さん



浅尾 萌子さん



菅原 史哉さん



10年を振り返るスライド上映



## 戦より平和は良けれ

戦争を知らないあなたに 好評発売中

### 歴史の証人たちがペンを執った

この文集は、戦場にいった人たちや、戦後を守った人々が、重い過去を背負って、ようやくペンを執った。  
「戦争はむごい。戦には正義もなければ、勝者もない。平和が第一」。  
語々と述べる語り口には、生命を得た体験者でなければ書けない説得力がある。  
平和な時代だからこそ、この証言は、語り継がなければならない。  
適かな日のつどい  
代表 八島 信雄

第1章 出征一家族との別れ  
第2章 戦中の苦闘、生一死下の子ども  
第3章 戦時統制下の暮らし  
第4章 戦後の守りと空襲  
第5章 男たちは戦地で  
第6章 遠く祖國と家族への思い  
第7章 終戦の年  
第8章 戦後生活と引き継ぎ  
第9章 平和への祈り

旧満州の山中で逃げ回る中、  
幼い孫は思ひ死なせ、  
生後間もない孫は泣き声が迷惑たからと  
生きたまま溝に投げ落とされた……

発行/社団法人山形県老人クラブ連合会 〒990-0021 山形市小白川町2-3-31  
TEL (023) 622-5601 FAX (023) 622-5606  
お問い合わせ、お求めは▼  
各最寄りの市町村老人クラブ連合会へ

1,800円

紙背A5判・縦書き・216ページ  
526ページ

# 県内一斉会員加入促進キャンペーンの効果

## 着実に浸透 申請老連件数が増加

県内一斉会員加入促進キャンペーン、平成25年度から新たに3か年計画で展開しこれまでの関心と機運の高まりを継続して、これまでの主な取り組みである新規会員を増やす活動に加え、現在あるクラブを活性化させ解散を防ぎ、また休会や解散したクラブを再結成・再加入させる新たな視点での行動で平成27年度まで期間を定め取り組んでいます。

会員加入促進運動の表彰では、表1の5区分を対象にして前年の取り組み成果をまとめ、達成したクラブを各市町村老連から申請をいただいています。

今年は、各部門を通して36老連より申請があり、223クラブが達成されました。

8月28日に開催した県老人福祉大会において、運動の経過報告と達成されたクラブを公表して達成奨励賞を贈りました。

表1：キャンペーン表彰達成状況

表彰区分	達成市町村	達成クラブ	会員増数
① 新規会員10%増	24	83クラブ	552人
② 新規会員5人以上増	22	69クラブ	462人
③ 70歳未満会員割合5%増	18	53クラブ	-
④ 再結成・再加入、新規結成クラブ	10	16クラブ	644人
⑤ 市町村老連会員増	2	-	
計			1,658人

## 新たな会員が推計で約2,000名仲間入り

キャンペーン表彰区分から次の3区分で増加人数をまとめたところ、1,658名の報告があり新規会員5名未満に数を仮に加算すると推計で約2,000名近くが、新たに仲間入りしていると思われます。

しかし、会員の死亡や健康上の退会とクラブの休会や解散が大きく影響し、毎年差引すると減少している状況にあることから、いかにそれら負の要因を払拭していくかが課題となっています。

## 老人クラブ「2万人会員増強運動」一年次を振り返り

平成26年度から5年後の平成30年度終了までに、平成25年の会員数を基準として2万人増やし7万人をめざして現在取り組んでいます。

一年目の集計を行い、11月10日・11日の会長・女性委員合同研修会と同月25日の事務担当者会議の開催に合わせて、報告をさせていただきました。

全体的には、クラブ数と会員数は依然として減少傾向にありますが、各老連独自に運動計画を作成されるなど努力されており、表2のとおり現状を維持することからはじめ増加している老連も出てきています。

一つひとつできることから目標に向かって、一歩踏み出すことで前進することができます。

会員の皆さん、知恵を出し合いながら、休会や解散するクラブを引き留め、同年代同士の仲間づくりのお誘い呼びかけを行いましょ。



会長、女性委員合同研修グループ討議

表2：平成27年度市町村老連組織状況(平成26年との比較)

区分	項目	達成数	老連名	増減率
クラブ数	増加	6老連	村山市・尾花沢市・舟形町・大蔵村・高畠町・遊佐町	+10.0%~
	現状維持	14老連	山形市・南陽市・西川町・戸沢村・鮭川村・真室川町・金山町・最上町・飯豊町・鶴岡市(朝日支部・榊引支部・温海支部)・酒田市(松山支部・平田支部)	-23.1% 平均 -4.0%
会員数	増加	4老連	尾花沢市・戸沢村・高畠町・遊佐町	+14.0%~
	減少率5%以内	18老連	山形市・上市市・村山市・東根市・西川町・舟形町・大蔵村・鮭川村・金山町・最上町・川西町・白鷹町・飯豊町・鶴岡市(鶴岡支部・榊引支部・温海支部)・酒田市(酒田支部・平田支部)	-26.8% 平均 -6.2%

# 第9回公式ワナゲ全国交流大会

## 輪でつなく健康交流

去る10月9日、山形市内のヒルズサンピア山形体育館を会場に、県内外から70チーム、選手・応援・運営関係者を含め430人を超える方が参加し、第9回公式ワナゲ全国交流大会を開催しました。

この大会は、公式ワナゲ普及にあわせてワナゲ王国山形を全国に発信することをねらいに実施しており、年々参加チーム、参加者とも増え関心と人気が高まり広がってきています。

参加チームは、地域の老人クラブの他、老人福祉施設からもあり、相互交流の場ともなって地域包括ケアの観点からも注目されています。

年々参加者の年齢は、高くなる傾向のあり、80歳以上の選手登録は全体の3割を超え、その中には100歳を越える方もおり健康で長生きを証明しています。

本県の健康寿命は70歳から73歳ですが、選手の平均年齢は77歳ですのでプラス5歳高く、まさに健康寿命延伸の生涯スポーツとして関心と人気が高まっています。

大会運営にあたっては、山形市老連役員をはじめ、公式ワナゲ公認指導審判員、普及員有資格者と東海大学山形高等学校福祉コースの生徒たちに加えて、今年から新たに県老人福祉施設協議会の支援協力をいただきました。

競技は、1チーム3人で構成し、1人が9本の輪を投げる単独投輪ルールで、1人3ゲームを行いその得点を集計する個人戦と団体戦では1チーム3人の得点を合計して得点の高い上位24チームが決勝トーナメントに進出することになっています。

今年度の団体優勝は長井市川原沢寿会チームが、善戦し栄冠に輝きました。

個人戦、団体戦とも非常に競技力が高く、今大会のパーフェクトは予選で9名10回、決勝トーナメントでは14名21回と各コートからはパーフェクトが出るたびに歓声が沸き、白熱した戦いの中にもふれあいがあり、楽しんでプレーしていました。

今大会の成績は、日本ワナゲ協会「全国ランキング大会」に連動し申請することにしており、今回も上位入賞への期待が高まっています。



### 成績結果

平成27年10月9日

#### ★団体部門

賞区分	チーム名	市町村
第1位	川原沢寿会	長井市
第2位	四ツ谷むつみ会	上山市
第3位	緑ヶ丘一丁目	酒田市
第3位	草岡	長井市

#### ★個人部門

賞区分	選手名	チーム名	市町村	得点(※)
第1位	安部 鶴 男	川原沢寿会	長井市	720
第2位	梁瀬 幸 子	真室川A	真室川町	660
第3位	田 畝 弘	勸進代B	長井市	630
第4位	佐竹 絹 子	四ツ谷むつみ会	上山市	600
第5位	古宮 才 次	船橋さざんか	船橋市	540

(※)得点は、3ゲーム合計得点、同点の場合の順位は年齢、性別をもって決定する。

#### ★パーフェクト賞(9名)

選手名	チーム名	市町村
佐藤 正 男	板井川	鶴岡市榎引
安部 鶴 男	川原沢寿会	長井市
池田 吉彦	若宮町二丁目老松会	酒田市
花輪 きよ	楯山A	山形市
佐竹 絹 子	四ツ谷むつみ会	上山市
梁瀬 幸 子	真室川A	真室川町
田 畝 弘	勸進代B	長井市
板垣 トキ	行川長生会A	村山市
古宮 才 次	船橋さざんか	船橋市

#### ★老人福祉施設部門(ふれあい賞)

賞区分	チーム・選手名	市町村
団体第1位	特別養護老人ホームおばなざわ	尾花沢市
個人第1位	菅野 吉 男 特別養護老人ホームおばなざわ	尾花沢市
個人第2位	阿部 直 蔵 敬寿園	山形市
個人第3位	芳賀 啓 敬寿園	山形市

# 平成27年度通常総会・平成26年度事業報告並びに収支決算を承認

6月26日、山形市・県総合社会福祉センター4階「大会議室」において、県老連を構成する市町村老連の代表者が参加し通常総会を開催いたしました。

柿崎会長があいさつを行い、来賓の県健康福祉部長あいさつでは、稲垣英明健康長寿推進課長が代読しました。

その後、議長に東根市の安達好悦会長を選出し議事に入り、議長より議事録署名人に寒河江市の高橋秀治会長と河北町の縄正志会長両名を指名しました。

議事では、平成26年度事業報告と収支会計決算、そして公益目的支出計画実施報告書の承認事項について事務局より説明し高山五郎監事の監査報告を経て審議され、異議なく可決されました。

次に任期満了に伴う役員改選では、各地区から予め候補者の推薦をいただき満場一致で承認され、直ちに就任されました。

また、会長並びに副会長の選任については、定款に基づき総会最終後理事会を開催し、選任を行い表1のとおり決まりました。



役員名簿 (表1)

役職	氏名	選出区分	所属老連役職
会長	柿崎 繁雄	最上地区	大蔵村老連会長
副会長	亀谷千代子	女性委員会	県老連女性委員長
副会長	吉泉吉四良	村山地区	天童市老連会長
副会長	小林 達夫	庄内地区	鶴岡市老連会長
副会長	今田 雄一*	置賜地区	高畠町老連会長
常務理事	高橋 潔	学識経験	県老連事務局長
理事	岸部 滋*	村山地区	山辺町老連会長
理事	高橋 秀治*	村山地区	寒河江市老連会長
理事	矢萩 結一	村山地区	村山市老連会長
理事	須貝 光雄*	置賜地区	米沢市老連会長
理事	武田 正三	庄内地区	酒田市老連会長
理事	遠田 武	庄内地区	庄内町老連会長
理事	高橋 石雄*	庄内地区	遊佐町老連会長
理事	岸 綾子*	女性委員会	県老連女性委員会副委員長
監事	高山 五郎		新庄市老連会長
監事	工藤 健一		西川町老連会長

\*印は新任

## 平成26年度 正味財産増減計算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

科目	当年度	前年度	増減	科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部				(2) 経常外費用			0
1. 経常増減の部				過年度減価償却費	0	11,473,661	△ 11,473,661
(1) 経常収益				経常外費用計	0	11,473,661	△ 11,473,661
①受取会費	7,441,000	7,708,200	△ 267,200	当期経常外増減額	0	△ 11,473,661	11,473,661
②事業収益	5,249,622	6,010,630	△ 761,008	他会計振替額	0	0	0
③受取補助金等	6,743,000	7,423,000	△ 680,000	当期一般正味財産増減額	△ 6,561,377	△ 19,557,819	12,996,442
④受取負担金	223,600	709,800	△ 486,200	一般正味財産期首残額	63,294,018	82,851,837	△ 19,557,819
⑤雑収益	1,535,535	2,128,661	△ 593,126	一般正味財産期末残額	56,732,641	63,294,018	△ 6,561,377
経常収益計	21,192,757	23,980,291	△ 2,787,534	II 指定正味財産増減の部			
(2) 経常費用				受取寄付金	0	0	0
①事業費	22,065,293	23,199,064	△ 1,133,771	一般正味財産への振替額	0	0	0
②管理費	5,688,841	8,865,385	△ 3,176,544	当期指定正味財産増減額	0	0	0
経常費用計	27,754,134	32,064,449	△ 4,310,315	指定正味財産期首残額高	0	0	0
当期経常増減額	△ 6,561,377	△ 8,084,158	1,522,781	指定正味財産期末残高	0	0	0
2. 経常外増減の部			0	III 正味財産期末残高	56,732,641	63,294,018	△ 6,561,377
(1) 経常外収益	0	0	0				
経常外収益計	0	0	0				

## 平成27年度予算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

科目	当年度	前年度	増減	科目	当年度	前年度	増減
I 事業活動収支の部				2. 事業活動支出			
1. 事業活動収入				①事業費支出	19,621,000	22,339,680	△ 2,718,680
①会費収入	6,900,000	7,441,000	△ 541,000	②管理費支出	5,318,000	5,983,000	△ 665,000
②補助金等収入	5,506,000	6,793,000	△ 1,287,000	③予備費	87,000	39,144	47,856
③委託費収入	1,400,000	3,331,680	△ 1,931,680	事業活動支出計	25,026,000	28,361,824	△ 3,335,824
④拠出金収入	90,000	96,000	△ 6,000	事業活動費収支差額	△ 450,000	△ 384,144	△ 65,856
⑤事業負担金収入	360,000	216,000	144,000	当期収支差額	△ 450,000	△ 384,144	△ 65,856
⑥事業関連収入	2,300,000	1,900,000	400,000	前期繰越収支差額	450,000	384,144	65,856
⑦雑収入	420,000	400,000	20,000	次期繰越収支差額	0	0	0
⑧繰入金収入	7,600,000	7,800,000	△ 200,000				
事業活動収入計	24,576,000	27,977,680	△ 3,401,680				

# 日本のシンボル、人類が共有すべき

世界の宝富士山を擁する静岡に集う

10月28・29日、静岡県静岡市において、第44回全国老人クラブ大会が開催され、本県からは8名が参加しました。

1日目の活動交流部会では、「支え合う地域づくり」、「同世代の連帯・仲間づくり」、「演じる活動〈舞台発表〉」の3部会が設けられ、熱心に討議されました。

2日目は、「徳川家康公と久能山東照宮」と題して、久能山東照宮宮司・同博物館館長の落合偉洲氏の講演に続き、東海大学付属静岡翔洋高等学校・中部部チアリーダー部による「チアリーディング」が披露されました。

また、式典では、全国老人クラブ連合会会長表彰4区分157名、117団体にに対し授与されました。本県の受賞者は、次のとおりです。

- ◇育成指導功勞 成澤鐵男(県老連前理事・遊佐町老連前会長)、歌丸力夫(県老連前理事・南陽市老連前会長)
- ◇優良老人クラブ 月橋老人クラブ親和会(最上町)
- ◇優良市町村連合会 尾花沢市老人クラブ連合会

誠におめでとうございます。今後のご活躍をご祈念申し上げます。

来年度は、富山県で11月9・10日に開催されます。



## 全老連活動賞

この賞は、全国老人クラブ連合会がそれぞれの活動分野に焦点をあて、他の参考となる活動を先駆的に実施している単位クラブ、あるいは連合会に贈呈され、贈呈を通して優良事例を掘り起こし、活動への意欲を高め、老人クラブ活動の一層の発展を目指していこうとするものです。

今年度も、市町村老連からの推薦申請方式をとらせていただき、自薦、他薦問わず自分たちの活動を自己評価し、自信をもって活動されており意欲を感じとることができました。

今年度は、2部門に次の4団体を推薦し決定いたしました。

賞区分(部門)	受賞団体
①仲間づくり活動部門	山形市／山形市老人クラブ連合会
②健康づくり活動部門	新庄市／新庄市老人クラブ連合会 戸沢村／本郷老人クラブ 庄内町／笑寿会



# 「老人クラブ介護予防・健康づくり支援事業」

地域の老人クラブが取り組む介護予防と健康づくり活動を推進しようと、みずほ教育福祉財団が行う「老人クラブ介護予防・健康づくり支援事業」の助成を受け、健康づくり推進員取得者を活用して、県内 2 カ所を指定し会員増強運動を目的に事業を展開しました。

## ■高島町老人クラブ連合会

### 『いきいき元気セミナー in たかはた』

平成 27 年 7 月に若手委員会と健康づくり推進員で事業の実行委員会を設置し、高島町老連の会員が各地域でいつでも取り組める健康づくりプログラム考案と同世代が集える場づくりを目的に実施しています。

セミナーは、ニュースポーツ体験や作って学ぶ栄養と料理教室、懐かしいスポーツの基礎知識を学ぶ健康ボウリングなど若手委員が同世代に呼びかけ興味を持って取り組める内容で、地域の仲間と集う事の楽しさを実感し人気を集めています。

2 回開催される公開講座においては、町内の会員外の高齢者も参加し、お医者さんから聞く健康診断基礎知識を学習、「健康診断に異常がないから正常であるとは限らない、病気ではないが可能性を秘めていることもある」という驚きの先生の言葉に目からウロコ状態でした。

2 回目は、元県男女共同参画センター所長の金澤和子先生を講師に、地域の高齢者に子供の見守り活動を頑張ってほしいという講演をいただき、昔懐かしいおやつの話や遊びの話の聞いたり思い出したり、会場が一体感になりとても楽しいひと時を過ごしています。モデル事業が終わっても、高島町老連は若手委員に限らず全会員を対象にした事業を継続的に実施して行きたいと計画中で意欲満々です。



料理教室



ステップエクササイズ教室

## ■酒田市老人クラブ連合会平田支部

### 『健康いきいき塾』

平成 26 年度に県老連の推薦を受けた 2 名が全老連主催の健康づくり中央セミナーに参加、「健康づくり推進員」として、健康いきいき塾のカリキュラムをつくり事業を実施しています。

平田支部の山間部では、高齢になっても現役で農業に携わる会員が多く、町の中心部で開催される事業になかなか参加できないなどの声から、各地区で推薦された会員を健康づくりリーダーとして養成、健康づくり推進員とともにいきいき塾で学んだことを地域で発揮できる環境づくりを計画しました。

月に 1 度開催される健康いきいき塾は、専門の講師から人間の体の構造や動かすための基礎知識、健康的な呼吸法を取り入れた健康ウォーキングなどの実技を取り入れた講習や、いざというときのための AED 心肺蘇生法、高齢者うつ病と認知症予防の理解など多様なカリキュラムとなっています。

支部会員のニーズ（要望）に応える健康づくり事業に若手委員の活躍と会員増強を期待しています。



スポーツ吹き矢



健康ウォーキング

## 編集 後記

今年 7 月から県老連の愛称「きららクラブ山形」が封筒や書類、役職員の名刺などに使われるようになり、私たち事務局も電話に出るとき「はい、きららクラブ山形です」と応えるようになりました。

しかし、電話をかけた相手から「県老連ですか？」と聞き返されることもあり、愛称を使っていることを説明しご了承いただいているのが現状です。

世間では「オレオレ詐欺」や「還付金詐欺」などの電話や、「電話の料金がお安くなりました」というセールス電話が何度もかかってきます。

聞きなれない会社名の電話には「知らない、必要ない」など毅然とした対応をしたいものです。

家族や役場職員を名乗る電話も「いつもと声の調子が違うな？おかしいな？」と思ったら、家族や友人に「こんな電話がかかってきたよ」と相談することも防犯のひとつです。

聞きなれないとは思いますが、これからも県老連は「きららクラブ山形」と愛称を使って電話に出ますので、会員・関係者の皆様にご理解いただき、「きららクラブ山形」が定着することを願ってます。（歩）